

鈴鹿工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	日本文学
科目基礎情報						
科目番号	0148		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	材料工学科		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	教科書：坪内稔典・他 編「改訂版現代文B」（数研出版），参考書：「五訂版漢字とことば 常用漢字アルファ」（桐原書店），石谷春樹「日本近代文学選」（アイブレーン），本校指定の電子辞書。					
担当教員	久留原 昌宏					
到達目標						
社会人としての日本語の理解力・表現力を備え，近現代の日本文化全般に親しむことができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	応用的な社会人としての日本語の理解力を備えている。		基本的な社会人としての日本語の理解力を備えている。		社会人としての日本語の理解力を備えていない。	
評価項目2	応用的な社会人としての日本語の表現力を備えている。		基本的な社会人としての日本語の表現力を備えている。		社会人としての日本語の表現力を備えていない。	
評価項目3	応用的な近現代の日本文化全般に親しむことができる。		基本的な近現代の日本文化全般に親しむことができる。		近現代の日本文化全般に親しむことができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	国語ⅠA・ⅠB・Ⅱの学習を受けて，3年生では，さらに日本語で書かれたさまざまな文章（小説・随想・評論・詩歌等）の読解を通して，社会人として必要な日本語の理解力，および日本語による表現力を身につけさせたい。					
授業の進め方・方法	・すべての内容はJABEE基準1. 2(a)および(f)，学習・教育目標(A)の〈視野〉および(C)の〈発表〉に対応する ・授業は講義・演習形式で行う。講義中は集中して聴講する。 ・「授業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする。					
注意点	<到達目標の評価方法と基準> 「知識・能力」1～13を網羅した問題を，2回の中間試験・2回の定期試験と小テスト・提出課題・口頭発表等で出題し，目標の達成度を評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とする。合計点の60%の得点で，目標の達成を確認できるレベルの試験を課す。 <学業成績の評価方法および評価基準> 前期中間・前期末・後期中間・学年末試験の平均点を60%，小テストの結果を20%，提出課題・口頭発表等の結果を20%として評価する。ただし，前期中間・前期末・後期中間・学年末試験の4回の試験ともに再試験を行わない。 <単位修得要件> 与えられた課題レポート等をすべて提出し，前期中間・前期末・後期中間・学年末の4回の試験，課題，小テストにより，学業成績で60点以上を取得すること。 <あらかじめ要求される基礎知識の範囲> 本教科は，「国語ⅠA」「国語ⅠB」「国語Ⅱ」の学習が基礎となる教科である。 <レポートなど> 理解を助けるために，随時演習課題を与え，提出させる。また夏期休業中の宿題として，課題図書による読書体験記を執筆させ，提出させる。さらに，「常用漢字アルファ」に基づき，漢字小テストを実施する。 <備考>授業中は学習に集中し，内容に対して積極的に取り組むこと。出された課題は期限を守り，必ず提出すること。なお，第2学年に引き続き，文部科学省認定の「漢字能力検定試験」への積極的な取り組みを奨励する。なお，本教科は後に学習する「文学概論Ⅰ・Ⅱ」「言語表現学Ⅰ・Ⅱ」等の基礎となる科目である。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	本授業の概要および学習内容の説明 評論 国境を越える言葉（長田弘）①		1. 作品の今日的な表現に使われる漢字・語句について，正確な読み書きと用法を習得している。 2. 作品について，作者の意図を理解し，論理の展開を把握することができる。 3. 作品について，各段落，および全体の要旨についてまとめることができる。	
		2週	評論 国境を越える言葉（長田弘）②		上記1. 2. 3に同じ。	
		3週	評論 国境を越える言葉（長田弘）③		上記1. 2. 3に同じ。	
		4週	小説 山月記（中島敦）①		4. 作品の文学的な表現に使われる漢字・語句について，正確な読み書きと用法を習得している。 5. 作品について，文学史的知識を身につけ，作品が書かれた時代背景を理解することができる。 6. 小説のあらすじを把握し，登場人物の心情・行動を理解することができる。	
		5週	小説 山月記（中島敦）②		上記4. 5. 6に同じ。	
		6週	小説 山月記（中島敦）③		上記4. 5. 6に同じ。	
		7週	小説 山月記（中島敦）④ 前期中間までの復習		上記4. 5. 6に同じ。	
		8週	前期中間試験		上記1～6について理解し，説明することができる。	
	2ndQ	9週	前期中間試験の解説と総括 詩 永訣の朝（宮沢賢治）①		7. 詩歌について，文学史的知識を身につけ，作品が書かれた時代背景を理解することができる。 8. 詩歌作品の文学的な表現に使われる漢字・語句について，正確な読み書きと用法を習得している。 9. 詩歌について，作者の意図を理解し，表現技巧を把握することができる。	
		10週	詩 永訣の朝（宮沢賢治）②		上記7. 8. 9に同じ。	
		11週	詩 永訣の朝（宮沢賢治）③		上記7. 8. 9に同じ。	
		12週	評論 未来世代への責任（岩井克人）①		上記1. 2. 3に同じ。	
		13週	評論 未来世代への責任（岩井克人）②		上記1. 2. 3に同じ。	

後期		14週	評論 未来世代への責任（岩井克人）③	上記1. 2. 3に同じ.
		15週	評論 未来世代への責任（岩井克人）④ 前期末までの復習, 読書体験記の書き方	上記1. 2. 3に同じ. 上記1～9の学習内容を理解している.
		16週		
	3rdQ	1週	前期末試験の解説と総括 小説 檸檬（梶井基次郎）①	上記4. 5. 6に同じ.
		2週	小説 檸檬（梶井基次郎）②	上記4. 5. 6に同じ.
		3週	小説 檸檬（梶井基次郎）③	上記4. 5. 6に同じ.
		4週	小説 檸檬（梶井基次郎）④	上記4. 5. 6に同じ.
		5週	短歌 「日本近代文学選」より十首（伊藤佐千夫・他）①	上記7・8・9に同じ. 10. 詩歌について鑑賞能力を養い, 自分の感想を文章にまとめることができる.
		6週	短歌 「日本近代文学選」より十首（伊藤佐千夫・他）②	上記7・8・9・10に同じ.
		7週	短歌 「日本近代文学選」より十首（伊藤佐千夫・他）③ 後期中間までの復習	上記7・8・9・10に同じ.
		8週	後期中間試験	上記4～10について理解し, 説明することができる.
	4thQ	9週	後期中間試験の解説と総括 評論 消費されるスポーツ（多木浩二）①	上記1. 2. 3に同じ.
		10週	評論 消費されるスポーツ（多木浩二）②	上記1. 2. 3に同じ.
		11週	評論 消費されるスポーツ（多木浩二）③	上記1. 2. 3に同じ.
		12週	評論 消費されるスポーツ（多木浩二）④	上記1. 2. 3に同じ.
		13週	小説 夢十夜（夏目漱石）①	上記4. 5. 6に同じ.
		14週	小説 夢十夜（夏目漱石）②	上記4. 5. 6に同じ.
		15週	小説 夢十夜（夏目漱石）③ 学年末までの復習 年間授業のまとめ（アンケート）	上記4. 5. 6に同じ. 上記1～10の学習内容を理解している.
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	3	
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べるができる。	3	
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べるができる。	3	
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3	
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	

評価割合

	試験	小テスト	課題・発表	ノート提出	合計
総合評価割合	60	20	10	10	100
配点	60	20	10	10	100